

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		スタンドバイYou		公表日		2025年 3月 31日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		4	
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		3	1	・できるだけ手厚い支援を行えるように人員配置をしている。	・人手不足な状態が見られる。人員の増加を予定している。	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		3	1	・事業所内のフロアは全てフラットにされている。	・手すりの設置を検討する。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		3	1	・毎朝、スタッフが清掃を行っている。 ・年末には大掃除を利用者さんと共に行っている。	・清掃が行き届いていない場所がある ・調理スペースが狭く通り道でもあり、事務所の音が筒抜けで利用者さんの集中を欠いてしまう。	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		3	1	・基本的に個別対応だが、周囲の環境が気になる利用者さんには個室対応を行っている。	・利用者さんが静かに休憩できるスペースが場合によっては提供できない。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		4		・児発管が中心となり支援を行い、新たな目標設定や意見交換を行っている。 ・週一回ケース会議を設け、事例検討もやっている。	・今後も継続する。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		4		・日頃より保護者から意見等を投げかけやすい関係づくりを心掛けている。要望等があった場合は直ちにスタッフ間で共有し改善に努めている。	・今後も継続する。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		4		・日頃よりスタッフ間で意見等を投げかけやすい関係づくりを心掛けている。	・今後も継続する。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。			4	・現在、第三者評価は受けしていない。	・外部評価の制度はない ・第三者がいない ・利用者家族から、日頃の支援に対する工夫や努力を評価いただく機会はあるが、地域から見てどのように評価されているのかを知る機会がない。さらに良いサービスを目指していくための気づきの機会も必要であると思う。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		3	1	・スタッフのスキルアップ、サービス提供の質向上の為、児発管が中心となり、社外研修・社内研修を行っている。 ・朝のミーティングで対応の原則等ミニ研修を行っている。	・利用者さんのニーズは様々であるが、特に進路を選ぶ岐路に立った利用者さんに適切な支援を行えるよう研修などで学ぶ機会があるとよい。今は業務を滞りなく遂行するので精一杯である。
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		2	2	・公式ラインを活用し、公表を行っている。	・一人一人の状況に即した支援が十分に行き届いているとは言えません。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。		3	1	・見学時や体験時にニーズを確認し、アセスメントシート・サービス計画書を作成している。児童の利用状況をスタッフと確認しながら、適宜、更新している。	・アセスメントの精度や客観性の向上、より具体的なニーズの把握には改善の余地がある。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		4		・全スタッフ間で意見交換をし、共通理解を図り、最善策の検討を行っている。	・今後も継続する。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		3	1	・全スタッフ間で意見交換をし、プログラムを構成している。	・計画に沿った支援に取り組んでいるものの、共有の方法や頻度には課題が残る。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		3	1	・アセスメントシートのみでの使用ではあるが、気づいた事等をスタッフ間で共有し、状況や背景、支援方法について意見交換をしている。	・適切なツールを取り入れ、アセスメントの精度を向上させることで、よりの確かな支援につなげていくことが求められる。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		4		・自発管が主となり、スタッフの意見等を取り入れながら設定をしている。	・今後も継続する。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		4		・全スタッフ間で意見交換をし、プログラムを構成している。	・今後も継続する。

支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		・利用予定の確認時、様子やニーズを共有し。意見交換に努めている。当日、再度確認し必要に応じて意見交換等も行っている。	・今後も継続する。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4		・個別活動が中心となっているが、季節ごとの行事等は集団での活動の場も設けている。集団活動に関しては児童の状況に応じて必要性を見極めている。	・今後も継続する。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		・朝礼時に必ず予定の確認や児童の状況等の情報共有をしている。また、保護者や関係機関等からの情報も共有している。	・今後も継続する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		・翌日のミーティングで共有している ・それぞれの支援終了時に気づき等があればすぐにスタッフ間で振り返りを行っている。場合によっては翌日の朝礼時に周知している。	・支援の質向上につながる具体的な改善策を導き出し、実践に落とし込む仕組みを整えていく必要がある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		・読みやすく正しい情報を記録するよう心掛けている。記録漏れの内容月末には複数のスタッフによりチェックしている。	・今後も継続する。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3	1	・最低6か月1回は行い、支援計画の見直しの必要性を判断している。児童の状況に応じ見直しが必要となる場合は随時モニタリングを行っている。	・モニタリングの方法や頻度を見直し、実際の支援に適切に反映できる体制を整えていくことが求められる。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4		・日常生活や自立生活を支援する活動(買い物練習通所練習等)、社会生活や社会経験の幅を広げる活動(イベント手伝い等)、創作活動(季節を感じる活動等)を組み合わせ支援している。	・今後も継続する。
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4		・支援プログラムの組立時、いくつかの選択肢を示し、本人に選んで貰うしたり、作業プログラムの組み立てを一緒に考えるなど自発性を生む仕組みを作っている。	・今後も継続する。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		・児発管と対象メンバーの状況を理解しているスタッフが出席している。	・今後も継続する。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		・協力医療機関やその他の医療機関・児相・学校、全ての関係機関と必要時には迅速に対応をしている。	・今後も継続する。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4		・担当教諭と学校や事業所の様子を共有し、必要に応じて電話連絡や訪問にて支援の方向性を伝えている。	・今後も継続する。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	2	・当事業所は利用受け入れが小学校高学年からということもあり、保育所等就学前の施設との連携が無いが、今後必要性を感じる児童については連携をしていきたいと思います。	・就学前施設とは情報共有していない ・関係機関との情報交換を強化していくことが重要。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4		・学校を卒業後福祉サービスの移行について受け入れ事業所の体験活動や求められる情報提供を行っている。	・今後も継続する。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	3	・研修への参加はしている。	・現在必要なケースは無いが、必要に応じて連携していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		4	・交流活動を行っていない。	・交流方法についてもう少し検討の上、活動の機会を設けたい。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	4		・自発管が積極的に参加をしている。	・これまで参加していないが、必要であれば参加する。 ・スタッフの参加機会を増やし、協議会で得た知見をチーム全体で活かす体制を整えていくことが重要。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	3	1	・保護者と共通理解ができるよう日頃の気になった点等は直接連絡を取り伝え合っている。	・今後も継続する。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	2	・必要に応じて助言等を行っている。	・まだ十分ではないと感じています。家族のニーズに合わせた支援を強化し、家族と協力していく体制を整えていきたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		・契約時に契約書、重要事項説明書の内容や利用者負担額を画面を用いて説明している。変更等があれば書類の配布、説明が必要に応じて行う。	・今後も継続する。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		・日々の支援の中で本人より思いをヒアリングしたり、送迎時に保護者さんの意向をお伺いしている。希望される方は随時、相談も受けている。	・今後も継続する。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4		・支援計画のサイン時に説明をし、同意を得ている。	・今後も継続する。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		・保護者から悩み相談があった場合、不安や悩みが解消できるよう、できる限り助言や支援を行っている。	・今後も継続する。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	4		・新年や年末等節目に保護者会の開催を行っている。	・今後も継続する。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		・苦情があった場合には迅速かつ丁寧に適切に対応ができるよう苦情窓口の整備や解決体制を整えている。	・今後も継続する。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		・公式ライン、インスタグラムを活用し発信している。	・今後も継続する。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3	1	・契約時に個人情報使用同意書にて、個人情報にあたる書類や情報説明をし、署名頂いている。また、職員には雇用契約時に秘密事項保持書に関する書類に署名をもらっている。SNS等への写真掲載は同意書を用いて同意いただいた内容の通り適切に扱っている。	・センシティブな個人情報を取り扱っているという意識が欠ける場面があると感じる。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		・事前に予定表の提示、筆談等それぞれの意思疎通や伝達に必要な配慮を行っている。保護者とは電話連絡が取りづらい場合にはメールや書面等を用いて口頭説明だけにならないよう、工夫している。	・今後も継続する。
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	1	・地域の方が気軽に来所できるような地域との関わり(挨拶等)を意識している。近所の方が来られた際には一緒に活動に参加してもらうなどしている。	・現在、地域に向けた行事を行っていない
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		・マニュアルは閲覧できるよう設置をしている。	・今後も継続する。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		・年2回の避難訓練を実施している。スタッフと参加児童で振り返りを行い災害等への理解が深まるように取り組んでいる。	・今後も継続する。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	2	2	・ヒアリングシートや自発管より周知を都度行っている。	・全て把握できていない ・事前に確実に確認し、必要な対応を講じることが不可欠。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		・保護者への確認及び相談をしている。また、フェイスシートに確認した情報を記入している。	・医師の指示書のあるこどもはいない
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		・毎月安全チェックシートを用いて施設内外の確認を行っている。	・修繕が必要な箇所があるため修繕の検討を行う。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		・毎月安全チェックシートを用いて施設内外の確認を行っている。毎月お渡ししている支援記録にてお知らせしている。	・今後も継続する。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3	1	・必要に応じてヒヤリハットを作成し、事業所内で共有している。	・定期的な振り返りを設けるよう検討していく。
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	2	2	・事例を用いて朝礼等で研修を行っている。	・研修という周知が甘かったため、今後は周知した上で行いたい。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	3	1	・やむを得ず身体拘束を行う場合は、組織的に切迫性、非代替性、一時性や行動制限が必要となる状況などについて検討する。検討した内容を児童や保護者に事前に十分に説明し、同意書にて同意を得た上で、サービス計画に記載し、行動制限を行った場合は、その様態及び時間、その際の児童の心身状況並びに緊急やむを得ない理由等、必要な事項を経過記録に記載することとしている。	・現在まで身体拘束を行ったケースは無いが、必要な場面では左記の対応を今後も継続する。	